

# ICAN Monthly Report

アイキャンの食料提供を受けた子どもたち（タイズ）



## 「食糧」と「希望」を、最も弱い立場の人々へ

イエメンでは、2015年3月に紛争が激化して以来、現在までに空爆や戦闘によって8,600人以上が亡くなり、58,000人以上が負傷しました。また、紛争が原因で経済と物流が止まり、人口の半数以上に当たる1,700万もの人々が、深刻な食糧不足に苦しんでいます。アイキャンは、2015年12月にイエメン国内において食糧の提供を開始し、これまでに15,161世帯、延べ10万人以上に食糧を提供してきました。活動の中で、私たちが特に心がけていることがあります。それは、最も弱い立場に置かれている人々に提供すること、そして、「希望」を届けることです。

その方針の一つが、「事業地の選定」に表れています。イエメンの紛争は全土に至りますが、最も紛争の被害が激しく、多くの子どもたちが飢餓の危機に直面しているのは、イエメンの西海岸地域です。アイキャンは、事業開始から現在まで、一貫としてこの地域での活動にこだわってきました。紛争の激戦区での活動は、常に危険や困難が伴います。その中で、困難に直面する度に、解決方法を模索して来ました。例えば、戦闘や流れ弾を避けたルートを移動し、安全を確保した場所で食糧を提供するためには、流動的な戦局を的確に把握する地元の複数の情報筋とつながりを持ち、絶えず情報を収集・分析する必要があります。また、治安悪化に伴い、外部からの人の流入を嫌う傾向が強まる中、様々な部族と良好な関係を築き、至る所に設置された厳しい検問を通過し、物資を運んでいく必要があります。提供が困難な地域だからこそ、最も食糧を必要としている人たちがそこにはいます。

また、アイキャンでは、西海岸の紛争の激しい地域に住む人々の中でも、寡婦世帯、障がい者世帯、高齢者世帯などの、混乱の中でさらに追い詰められやすい人々を優先して、食糧提供を実施しています。また、提供場所まで出てこれない世帯に対しては、彼ら・彼女らが住んでいる場所まで食糧提供チームが直接食糧を届けてきました。提供の際には、感謝の声に加え、「これまで1日1食だけで生き延びて来た」、「紛争開始以降、初めて食糧を受け取ることができた」、「私たちのことを忘れてくれたことが嬉しい」等の切実な声が聞かれます。

イエメンの紛争は、世界の人々から関心をもたれない「忘れ去られた紛争」とも言われます。その中で、取り残されがちな人々に焦点を当て、私たちが食糧を届け続けることで、厳しい状況に置かれた人々が生き延びる手段を得るだけでなく、「遠く離れた日本に住む人たちは、みんなのことを忘れていない」というメッセージも届けることができます。今月は、2,195世帯、約15,000人に食糧を届けることができました。そして、同数の人々に、「生きる希望」を届けられたと信じています。今後も、私たちは寄付者の皆さんから託された「食糧」と「希望」を届けていきます。



ICAN 日本事務局  
藤目春子（ふじめはるこ）  
～プロフィール～  
ピッツバーグ大学公共政策・国際関係学修士。国連、NGO、JICA等で、主に住民参加型の教育・社会開発事業に従事。アフリカ在住8年を経て、2016年2月より現職。

## Project Site



認定NPO法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須3-5-4 矢場町パークビル9階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

# Close up

## I. 危機的状況にある子どもたちと「ともに」行う活動

全6事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

### ①路上の子どもたち

9月30日/ケソン(マニラ首都圏)

#### カリエカフェ、新メニューの試作

元路上の若者が運営する「カリエカフェ」では、手軽に食べられるお菓子や軽食などのメニューがもっと欲しいという顧客からの声を受け、新商品候補の試作を行いました。リカさん(17歳)は、「試作がうまくいき、新商品が完成して嬉しい。これを機に提供できる商品を増やしていきたい。」と語りました。新商品は10月から店頭並べる準備を進めています。



### ②紛争の影響を受けた子どもたち

9月7,22,28,29日/マラウィ(ミンダナオ)

#### マラウィ市周辺の避難児童に学用品一式を提供

フィリピン政府と武装勢力の戦闘から避難している5校535名の児童に、学用品一式を提供しました。「文具を持たずに避難したので、友達に借りるたびに恥ずかしかった。これからはそういう思いをせずに勉強できる。」(アイリンさん/11歳)、「鞆がなくてセメント用の袋を使っていた。この鞆は丈夫で気に入っています」(アルドゥグ君/9歳)などの声が聞かれました。



## II. できること (ICAN) を増やす活動

全7事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

### ボランティアツアー・海外研修事業

9月6~10日/マニラ

#### ボランティアツアーを通して芽生えた責任



国士舘大学の17名がボランティアツアーに参加しました。ごみ処分場や路上の子どもたちとの交流を経て、4日目は児童養護施設「子どもの家」を訪問し、木の苗植えや草取り、野菜や果物の収穫などのボランティアをしました。日本からの参加者からは、「自分にできることが見つかった」、「ボランティア経験を将来に活かしたい」などの感想がありました。

### NGO 相談員事業

9月30日~10月1日/東京

#### NGO 相談員としてグローバルフェスタに参加



日本事務局職員が、NGO 相談員として日本最大級の国際協力イベント「グローバルフェスタ」に参加しました。NGO 相談員ブースで質問に応じるだけでなく、会場内でチラシを配り、相談員の制度について紹介しました。就職関連の相談が多く、相談者からは「NGO でどのようにキャリアを始めればいいのか、これまで知らなかったので、直接相談ができてよかった。」などの声を頂きました。

### 4つのイベントにてフェアトレード出展

9月16、22-23、24、30-10月1日/愛知、東京

9月は4つのイベント(環境デーなごや、聖霊高校文化祭、デンソーハートフルまつり、グローバルフェスタ)において、フィリピンで生産しているフェアトレード商品の出展販売を行いました。「フェアトレード」という言葉を初めて知ったという方から、元々興味がある方まで、多くの方々とフェアトレード商品に込められた想いやアイキャンの活動を共有することができました。



## 今月の Media

9月1日/2日 河北新聞 ドロップインセンター、カリエカフェについて/パヤタス地区、SPNPについて

## 今月の ICAN 人

◎谷畑さん、すてきな想いとその実践力、ありがとうございます!

### マンスリーパートナー 谷畑 徹さん

「子どもたちの笑顔をお届けしていきたいです!」

インタビュー:10月20日

私は50歳という節目を機に、仕事以外で何か社会に役立てることはないかと、会社の社会貢献活動に参加し始めました。その活動の一環として、アイキャンのフェアトレード商品を販売することになり、そこで初めてアイキャンを知りました。

家族がフィリピン出身のため、既に何度もフィリピンに行ったことはありました。まだ幼い子どもたちが働いている様子を何度も見たこともありましたが、しかし、当時は、そのことについて深く考えることはありませんでした。アイキャンと出会い、今まで気にしてこなかったフィリピンの子どもたちについて、「どうして働かなければならないのだろう?」という疑問が湧くとともに、「何かできることはないか」と思うようになりました。2013年から始めたマンスリーパートナーは、仕事で忙しい私にとって最適のものでした。また、今月からは、スマイルチケット(チャリティ語学教室)でタガログ語の勉強も始めました。スマイルチケットなら、自分が語学力を身につけることができるだけでなく、授業料がチャリティーにもなるので、気に入っています。

実は、私がタガログ語を習っていることを、家族は知りません。将来、タガログ語を話せるようになり、驚かせることがとても楽しみです。また、念願のスタディーツアーにも参加して、タガログ語で路上の子どもたちとコミュニケーションを取れるように、これからも私の「アイキャン」を続けて、子どもたちに笑顔をお届けしていきたいです!



【編集者から一言】谷畑さんのようにマンスリーパートナーとして私たちの活動を応援してください!スマイルチケット受講者も大募集中です!